

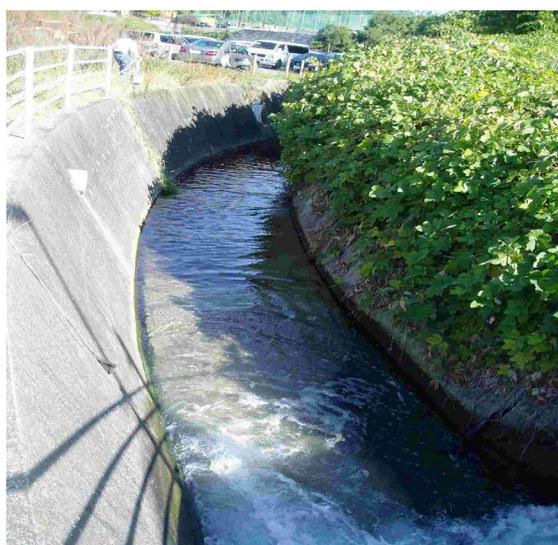
## 環境技術研究所ニュース：

### 環境技術研究所が四日市市内の海蔵川・竹谷川および十四川を調査

2019年11月13日（水）の午前中に武本名誉教授と高橋元教授らの環境技術研究所が海蔵川の本支流と上流の竹谷川・大口川を調査しました。翌日の14日（木）にも富田の十四川を調査しました。この調査は環境技術研究所の調査研究の一環として行われています。両日とも午前中は快晴で、気温も温かくよい調査日和でした。

海蔵川は7年ほど前から下流と中流で継続調査しており、数年前調査依頼があった上流側の本流と竹谷川・大口川も追加して行われています。海蔵川上流菰野町の大口川にある養豚場や市の県地区の竹谷川上流の養豚場からの排水が本水系の汚染を起こしていることから、県地区市民センターの安田新館長や「竹谷川の蛍と桜を守る会」の下村氏らと共同で調査実施中です。この県地区では、高濃度の畜産排水有機汚濁のため、蛍が減少したり、稲作が被害を受け、対策が急がれています。夏には稲が倒伏する被害がでており、かつ水田は富栄養の状態になっているそうです。大口川のある菰野町では、数億円を投じてこの大口川の支流の用水路を改修する工事中でした。またこの川に排水を流している養豚場も県の補助も含めて数千万円をかけて排水処理工事に着手するそうで、環境改善の動きが活発化しています。

富田地区の十四川は、8年ほど前から富田地区市民センターや「十四川を守る会」と共同で調査しています。今回は秋の渇水期ですが、富田地区では稲刈り後の田んぼを耕運機で耕起しています。十四川中下流部の北鶴町からは朝明川から導水をしており、中下流の流量はやや多めでした。中流部のスーパーサンシ付近は、流量は少な目で、かつ家庭・飲食店や田畑からの排水流出があり有機汚濁が認められ藻類が川床に繁茂し、窒素分やCOD（化学的酸素要求量）値、CL（塩化物イオン）値はやや高めでした。



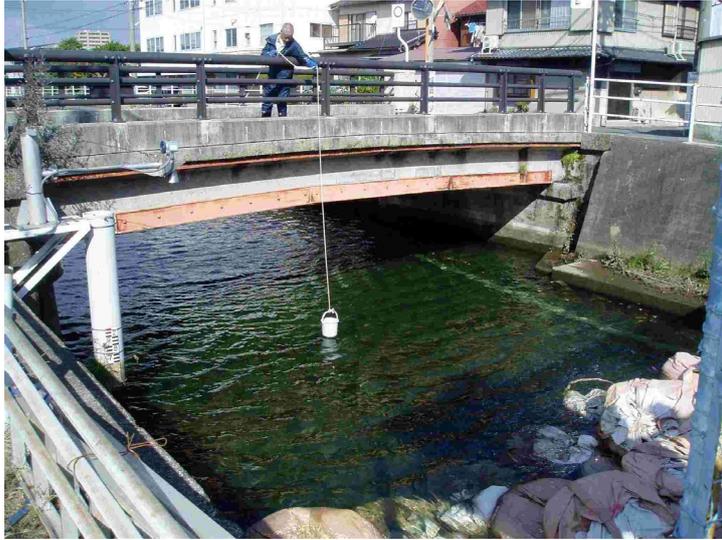
海蔵川支流の部田川上流部：東芝半導体工場の排水口付近



海蔵川本流のしらさぎ橋での採水作業



大口川支流の養豚場付近の用水路改修工事



十四川の最下流部の海水閘門の直上部での採水



十四川の中流部では窒素やリンが高濃度で藻が繁茂



最上流部：東ソー倉庫西、ポンプ場直下での調査